

産経 health

[> メタボリックシンドローム・ネット](#)
[> メタボリックシンドロームPRO](#)
[> 小児肥満ネット](#)
[> ニッポンの食、がんばれ!](#)

産経健康倶楽部
Sankei Health Club

[>> 会員専用ページトップ](#)

「産経健康倶楽部」会員専用ページ

毎日の生活に役立つ情報をお届けする「産経健康倶楽部」へようこそ！
このページでは、登録された会員さまだけの注目情報を定期的に掲載します。



食がカラダを変える! *Special* 対談 **新連載**

vol.01 末期がん患者に気力と活力を吹き込んだ「漢方文化」

「いのち」を支える食のあり方

黒岩

私は「いのち」にこだわって取材をしてきました。「いのち」に向き合う医療を探してきたのですが、そのきっかけは、僕の大事な友人で大先輩でもある逸見政孝さん(故人)ががんに侵されたことにあります。末期のがんでやせ細った体に、権威のあるドクターがメスを入れました。そんなことをして大丈夫なのかと思っていたら、案の定、あっという間に亡くなってしまったのです。でも手術はうまくいっていたのだそうです。がん細胞を完全に取り去ったにもかかわらず、命を落としたのはどういうことなのか… 当時から大きな疑問でした。ドクターは、がん細胞しか見ていなかったのではないかと、一人の人間の命は見ていなかったのではないかと、最先端医療の、ある種の怖さを見た気がしていました。

西洋医学を否定する気はありません。ドクターはがんを切ることに長けていたのです。がんをどれだけきれいに切るかということに人生をかけてきたのでしょう。当たり前だろうけれど、きれいに切れてよかった、そこで彼らは満足してしまいます。それは少しおかしいのではないかとずっと考えていたなかで、巡り合ったのが天野先生の東洋医学なのです。

最先端の医療とは、遺伝子治療や新しい医療機器を使った手術・テクニックなどと思いがちですが、それはひとつの側面だと思います。日常の暮らしのなかで病気になるないようにしていく、病気があったとしても生活の質を維持したまま生きる、これこそが一番新しい医療だと思うのです。医療という言葉を使っていいかどうかは分かりませんが、そこには“食”のあり方がものすごく大きな要素を持っていると思います。これが今の時代に求められているのではないのでしょうか。

超高齢化社会で老人が増え、医療費も増え続けています。それならば消費税を何%上げればいいのかという話をしているだけで、医療の質の話は全く出てきません。おかしいと思います。生活のなかの養生医学のような考え方と西洋医学が融合して未病を治していけば、病気の老人は減り、元気で笑顔で淡々と生きる老人が増えてきます。そうするとみんな幸せ、結果的に医療費も減ってくるでしょう。これをやらない限り、日本の経済は破綻してしまいます。



天野

私は中国で生まれ育ち、アメリカでの生活を経て、日本に帰化しました。人生で日本での生活が一番長くなりましたが、漢方の本来の姿をもっと伝えなければと思っています。例えばドイツやイタリア、韓国や中国に比べて日本の東洋医学研究はあまり

進んでいない印象がありますし、実際に医療の先生方から依頼される講演が多いのも事実です。いま、薬に頼るだけではない、漢方の文化や哲学などに関心が集まっているんですね。西洋医学の医師たちも悩んでいるのだと思います。

現代の体系的な医療ももちろん大切ですが、生活の中に溶け込んだ先人の知恵にこそ、今の暮らしに役に立つことがあるのではないかと思います。世界から注目されている東大の食の安全研究センターではいま、不老不死の薬といわれた冬虫夏草や数千年前のキノコの最新研究が始まっています。そこには現代人に一番必要な、抗ストレスの作用があるのではないかと考えられているのです。人間は誰でも、心をコントロールできなくなる時があります。ストレスに負けそうになるとき、生薬の基本である“食”で楽になれるのではないか。この研究は始まったばかりですが、私のライフワークとして続けていこうと思っています。

[📍 インデックスへ戻る](#)



[📧 お問い合わせ](#) [📍 サイトマップ](#) [📄 プライバシーポリシー](#)

Co